

## 「今日の論語」アップロード一覧

- あ** あやまち 過ちて改めざる、是を過ちと謂う。
- い** いにしえ 古の学者は己の為にし、いま 今の学者は人の為にす。
- う** うち 内に省みて疚しからざれば、夫れ何をか憂え、何をか懼れん。
- え** えきしゃさんゆう 益者三友、そんしゃさんゆう 損者三友、なお 直きを友とし、まこと 諒を友とし、たぶん 多聞を友とするは益なり。
- お** おのれ 己に克ちて礼に復るを仁と為す。
- か** かい 怪・りき 力・らん 乱・しん 神を語らず。
- き** ぎ 義を見て為ざるは、ゆう 勇無き也。
- く** くんし 君子は諸を己に求め、しょうじん 小人は諸を己に求む。
- け** げん 言を以て人を挙げず、あ 人を以て言を廃せず。
- こ** こうげんれいしよく 巧言令色、すく 鮮なし仁。
- さ** さんにんおこな 三人行えば必ず我が師有り。其の善き者を択びて之に従い、其の善からざる者に  
して之を改む。
- し** じんしゃ 仁者は難きを先にして、う 獲ることを後にす。
- す** す 過ぎたるは猶お及ばざるがごとし。
- せ** せい 性相い近きなり。なら 習い相い遠きなり。
- そ** いちげん (一言にして以て身を終うるまで之を行ふべき者有りや。)
- そ 其れ恕か。おのれ 己の欲せざる所、ひと 人にほどこ 施すこと勿かれ。
- た** たと 譬えば山を為るがごとし。いま 未だ一簣を成さざるも、や 止むは吾が止むなり。
- ち** ちゆうよう 中庸の徳たるや、其れ至れるかな。たみすく 民鮮なきこと久し。
- つ** つみ 罪を天に獲れば、いの 禱る所無きなり。
- て** てん 天下道有れば則ち見われ、すなわ 道無ければ則ち隠る。
- と** とく 徳は孤ならず、必ずかなら 鄰有り。

な なんじ くんし じゅ な しょうじん じゅ な な  
女、君子の儒と為れ、小人の儒と為る無かれ。

に にわとり き いづく ぎゅうとう もち  
鶏を割くに焉んぞ牛刀を用いん。

ぬ ねいじん とお ねいじん あやう  
佞人を遠ざけよ。佞人は殆し。

の のう もつ ふのう と おおき もつ すくな と あれども なき がごとく、実つれども  
能を以て不能に問い、多きを以て寡きに問い、有れども無きがごとく、実つれども  
むな しき がごとく、おか されて むく  
虚しきがごとく、犯されて校いず。

は はじめ あ おわり あ もの そ ただせいじん  
始有り卒有る者は、其れ唯聖人か。

ひ ひと し うら またくんし  
人知らずして慍みず、亦君子ならずや。

ふ ふる き たが あたら し もつ し な  
故きを温ねて新しきを知る、以て師と為るべし。

へ べんえき とも ぜんじゅう とも べんねい とも せん  
便辟を友とし、善柔を友とし、便佞を友とするは、損なり。

ほ ぼう こひょうが し くい な もの われとも  
暴虎馮河、死して悔無き者は吾与にせざるなり。

ま まな とき これ なら またよろこ ともえんぼう きた あ またたの  
学びて時に之を習う、亦説ばしからずや。朋遠方より来る有り、亦樂しからずや。

み みち ころぎ とく よ じん よ げい あそ  
道に志し、徳に抛り、仁に抛り、芸に遊ぶ。

む むい し おき もの そ しゅん おのれ うやうや ただ なんめん  
無為にして治むる者は、其れ舜か。己を恭しくして、正しく南面するのみ。

め めい し もつ くんし な  
命を知らざれば、以て君子たること無きなり。

も もく これ しる まな いと ひと おし う なに われ あ  
黙して之を識し、学びて厭わず、人を誨えて倦まず。何か我に有らんや。

や やく もつ これ うしな もの すくな  
約を以て之を失う者は鮮し。

ゆ ゆう して れい な もの にく  
勇にして礼無き者を悪む。

よ よ た い な ひつ な こ な が な  
四つを絶つ。意母く、必母く、固母く、我母し。

り り よ おこな うらみおお  
利に放りて行えば、怨多し。

れ れい よう わ とうと な  
礼の用は和を貴しと為す。

ろ ろうしゃ これ やす ほうゆう これ しん しょうしゃ これ なつ  
老者は之を安んじ、朋友は之を信じ、少者は之を懐けん。

わ われじゅうゆうご がく ころぎ さんじゅう た しじゅう まど ごじゅう てんめい  
吾十有五にして学を志し、三十にして立ち、四十にして惑わず。五十にして天命  
し ろくじゅう みみしたが ななじゅう ころ ほつ ところ したが のり こ  
を知り、六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従って、矩を踰えず。